

替わりフロン系冷媒の主、ガス排出量が多いため、流を占めているが、20 使用を縮小する方向で合 19年採択のキカリ改正 意した。

自販機など進展 現状グリーン冷媒とし 冷媒の開発を進めてお 20年採用のCO2、空 気、中間目標は達成でき が望ましい。(濱田一智)

家庭向け衣料用洗剤・柔軟仕上げ剤

ECサイトで販売

共栄社化学

共栄社化学は、家庭向け高級衣料用洗剤・柔軟仕上げ剤事業に乗り出す。全額出資会社が構築する自前のEC(電子商取引)サイトで直接、一般消費者に販売する。SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用し、催事を行い、認知度を高めていく。また、SNSなどを通してユーザーの感想や要望を収集し、新



商品開発に生かす。2024年にはECサイトの会員数を3000人、そして売上高1億2000万円の達成を目指す。共栄社化学が一般消費者向け衣料用洗剤を販売するのは約40年ぶり。今年2月に設立した100%子会社のアンボマー(大阪市中央区、片岡友美代表取締役CEO)が担

洗剤で培った洗淨技術を駆使し開発した洗淨性に優れた衣料用液体洗剤と、柔軟性ならびに吸水性を兼ね備える柔軟仕上げ剤を自前のECサイトを

ECサイトで売り出す。液体洗剤は高洗淨性成分「ピュアミール」、あらゆる汚れを落とすフリリアント酵素、殺菌効果があるとされる緑茶エキ

(カチオン)を組み合わせており、非常に高い洗淨性、消臭性を発揮する。柔軟仕上げ剤は南フロンをイメージした3種類の香りを品揃え。各製品の主成分には「マジカルC(カチオン)を配合し

ており、柔軟性と吸水性という相反する性能を両立することに成功した。今年12月に自社ECサ

イトで一般発売する。これに先立ち、これら商品

を広くていくうえで、クラウドファンディングを実施する。10月にマクアケで新商品を発表。購入者には12月に液体洗剤と柔軟仕上げ剤をセットにして贈る。資金調達目標は300名以上で1人当たり3000円、合計100万円。

商品開発と製造は共栄社化学が担当する。奈良工場(奈良市)で製造するが、協力会社に委託する場合もあるという。

理研が新規生体内合成化学治療

毒性ペプチドで高効率

理化学研究所の田中克典主任研究員(東京工業大学教授)、ベニー・アーマディ特別研究員(当時)、六車共平客員研究員(東工大・日本学術振興会特別研究員)らの研究グループは細胞毒性を示すペプチド(細胞毒性ペプチド)を使った生体内合成化学治療を開発し、無毒なペプチド前駆

体(中間体、プロドラッグ)を選択的にがん病巣に届けてから触媒反応により薬効を發揮する。今回、ルテニウム触媒を採用、反応効率を従来の金触媒に比べ約20倍に高めた。触媒活性に優れた1回の投与で高いがん細胞の増殖抑制を示した。正常細胞への影響、抗がん剤を複数回投与が必要

な現行の化学療法に代わる新たながん治療につながることを期待される。静脈注射で体内に投入するのは遷移金属触媒複合体(ルテニウム触媒)と、がん細胞に届くまでは薬効を示さないプロドラッグ。活性を妨げる体内環境でも活性を維持した対策を施した触媒はがん細胞表面に特異的に集

積した後、プロドラッグを細胞毒性のあるペプチド(6アミノ酸残基)に変換する。がん細胞をターゲットにアタックする

ので、正常細胞への影響は回避できるとしている。今回、ヒト結腸がん細胞を移植したマウスによる比較実験を行った。

すると腫瘍成長が抑えられ、無治療、触媒・ペプチド単独投与と比較して生存期間が2倍近く延びることを確認した。

持続可能社会／化学総合

クラリペイト・アナリティクス

21年の引用栄誉賞

岸本・平野・澤本の各氏に 研究センターの澤本光男教授(京都大学名誉理学、物理学、化学教授)が選ばれた。同賞は卓越した論文を執筆した「ノーベル賞ク 高く評価された研

量子科学技術研究開発機構の平野俊夫理事長(大阪大学名誉教授)、受賞者の59人がノーベル賞を受賞している

ラスの」の研究者に贈られる。これまでに同賞は毎年、医学・理学、物理学、化学、経済学を対象に選

同賞は毎年、医学・理学、物理学、化学、経済学を対象に選

高く評価された研

高く評価された研